

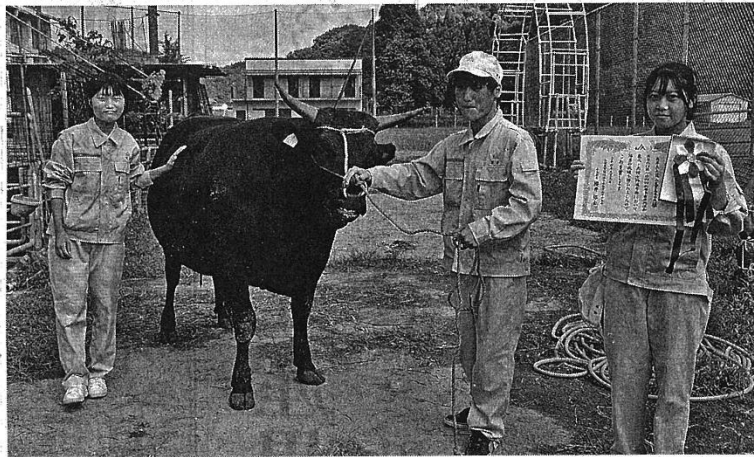
東雲高飼育の「照丸」

10年ぶり県進出へ

27日淡路で畜産共進会 農高「肉牛」で最優秀

篠山東雲高校が飼育している肉牛「照丸」が、27日に淡路家畜市場（淡路市）で行われる但馬牛の品評会「兵庫県畜産共進会」に出場する。このほど加西市であった同共進会の農大・農高枠選考会の「肉牛」部門で最優秀賞を受賞し、出場権を得た。県共進会には畜産農家も出品する。同校の肉牛が県共進会に出場するのは10年ぶり。日々の体調管理や、ランスを考えたり、ストレスを与えない飼育が実を結んだ。

食用の「肉牛」と繁殖人が審査した。用「種牛」の2部 照丸は2歳の雄。体重710キ、体高133・3校から3頭が出場。同4キ、胸囲228キ。肉部門では、県農林水産技術総合センターの職員2人が審査した。無駄のない体型が評価された。動物の飼育に関する専門知識や技術を学ぶ「アグリサービス類型」の生徒が飼育を担う。毎日、



日々の体調管理が結実

朝と夕方に餌をやる。ブラッシングや同校近くの農道での散歩なども定期的に行い、毎週水曜日には、昨年から導入した専用の計量器で体重を測定している。脂身やビタミンのバランスを考慮し、圧パン大麦、穀類の濃厚飼料、発酵性バガスチップを混ぜた餌を与えている。体重に応じ、与える量も変える。ストレスとなるサシバエが寄り付かないようにハエ取りリボンを体に貼ったり、殺虫ラケットを使ったりする方法も実践してきた。

さん(3年・丹南中出身)は「あまり実感がない」と話し、君(同・篠山中出身)は「最優秀賞を取れるとは思っていなかった」と驚いていた。昨年は選考会前に、飼育していた牛の関節が脱臼し、出場できなかった苦い過去がある。

さん(同)は「大会に向けてブラッシングや散歩をして、なるべく良い状態で出したい。A5ランクの神戸牛になり、多くの人を喜ばせてほしい」と話していた。農場長を務める教諭(同)は「毛じやも良く、肥育度も高くて健康に育ってくれている神戸牛になってくれるだろう」と期待はあると話し、「生徒たちの日々の世話や観察があった」と褒めていた。

2022年10月23日
丹波新聞